死刑囚江青の反乱　日本人宅にも秘密ビラ　大阪新聞-1981.03.06

大阪新聞
発行所 大阪新聞社
郵便番号 530
大阪市北区梅田2丁目4番9号
電話大阪(343)1221番(大代表)
振替 大阪 2742番
© 大阪新聞社 1981

最終版 50円
証券最終値

死刑囚江青の〝反乱〟

日本人宅にも秘密ビラ

残党 地下出版で呼応

毛沢東イズムと文革にサヨナラするための「政治ショー」とか、一種の「復しゅう劇」とかいわれた中国の「四人組裁判」。さる一月二十五日、二年の執行猶予つきながら死刑判決を受けた〝主犯〟の江青女史(六六)らの近況は、ほとんど伝わってこないが、香港や台湾の情報筋によると「しごく快適な監獄生活」の日々という。一般民衆の平均月収以上の金をかけた食事、広い独房、そして相かわらずの高姿勢…。女性の看守に「判決のテレビでの私、どうだった？　黒い服は似合っていたかしら」とたずね、あの〝ショー〟での出来ばえを気にかけている。死刑囚・江青の強気も、いぜんとして文革派・四人組残党が根を張り、江青支援の地下出版物が出回り、地方ではデモが起きている中国の現状と無関係でない。四人組を断罪した鄧小平副主席をトップとする現政権は、こうした〝反乱〟に頭を痛め、死刑を言い渡したものの二年後にどうするか―など難問山積である。

死刑判決を受けた江青。四人組裁判では、ゆう然たるポーズをくずさなかった(さる1月、AP)

食費だけで30万円

特別メニュー

張春橋

光栄の至りだ」。故毛沢東主席夫人のプライドを捨てず、証人や検事、判事にかみつき徹底抗戦した江青被告。最高人民法院特別法廷で死刑判決を受けた瞬間、近づいた女性法官に手錠をかけられ、引きたてられるように傍聴席の間を通って法廷をあとにしたが、裁判の模様は世界にテレビ中継された。にもかかわらず、その後の消息はほとんど明らかになっていない。

しかし、台湾や香港の〝情報筋〟によると、死刑囚・江青は、獄中でまことに快適な日々を送っていることがわかった。

北京市の北のはずれ、有名な小湯山温泉の近くに「外国人、立入禁止」の標識が立つ地域がある。在北京の外国人の中には、そこに軍事施設があると思っていた人もあったが、実はこれが〝20世紀のバスチーユ〟といわれる「秦城」。

食も住も……優雅な監獄の日々

また、中国問題にくわしい中島嶺雄・東京外大教授は「死刑を執行することは、混乱を増すだけ―という思いが現体制にはある。江青を殉教者にするわけですからね。最近、中国ではさかんに地下出版物が出回っている。江青同志を称える―式のものが多く、私も入手したが、これらは文革の残党がやっているんでしょう」という。

地下ビラは、北京在住の外人宅に投げ込まれ、半紙大のガリ版から50〜のパンフレットまで。中国のような全体主義の国で、こうした事態は珍しい、そこに政情の不安もうかがえるといえる。

なかには「私と鄧小平の闘争」と題した江青女史が書いたという〝獄中記〟まであり「鄧小平は私を〝妖婆〟とののしった」などと激しい調子でつづられている。「これまでなら考えられなかったこと。北京では昨年から壁新聞が禁止されているが、こうした地下ビラは、日本人の手にも渡り、話題になっている」と在北京のビジネスマン。

四人組裁判をひとつの区切りにして近代化をめざす中国は、実務派の鄧小平が実権を握り文革色の一掃に懸命。文革で登場し毛主席から後継者に選ばれた華国鋒主席の〝退陣〟がいわれているのも、ここにある。

「でも、文革は理論的には否定されたが、実態は生きています。いま三千六百万人ともいう中国共産党員のうち、60%は文革時の入党者。その人たちは政府や地方で中堅・幹部として第一線にある。〝十年後には再び我々の時代が来る〟と、いまはおとなしくして、光の当たるのを待っている。こうした勢力は鄧体制にとって実にやっかいだし、その勢力のシンボルが江青なんです」(中島嶺雄・教授)。いってみれば、思い切ってバッサリやりたいが、やれば反発もこわい―というところだ。

地下ビラだけでなく、中国では各地でデモが起きている。インフレ率は年15%を超え、国民生活も不安が増している中、とくに山西省や武漢(湖北省)ではポーランド並みに〝自主管理労組〟結成の動きがあり、鄧体制の神経を逆なでしている。山西省といえば、失脚確実の華国鋒主席の出身地であり、武漢は鉄鋼コンビナートの重工業都市。

文革は生きてる

「私を忘れるな！」自筆の獄中記も

頭の痛い鄧小平副主席

前後というから、六〇元の食事は十分に恵まれたもの。一元は約一三〇円。日本の勤労者の平均月収が五〇元に二十五万強だから、まあ三十万円の食費といったところ。「髪も黒いし、色つやもよい。それも、いいものを食べているからだ」という。

この秦城監獄には、王光美女史(劉少奇・元国家主席夫人)も投獄されていた。王光美女史といえば江青にとって最大のライバルで、文革さなかの一九六六年、江青の率いる紅衛兵によって大衆の前で〝公開つるしあげ〟されたあげく十二年間、獄中にあった。だが、その待遇は比べものにならなかったという。王光美女史は江青ら文革派の追放とともに復活し、いまは中国政府の要職にあるが、江青の死刑判決のさい、法廷で「ああ、ユカイだ」と感想をもらした。これなど政治闘争のすえの復しゅう劇を如実に物語る一例だ。

だが、獄中の江青女史は少しもひるんではいない。テレビは禁じられているものの、女性の看守に対して判決のテレビの様子を気にかけ「どう？　私はしっかりしていたでしょう」と話しかけ、黒い人民服の映り具合を気にしていたという。裁判でも「裁くなら裁いてごらん」と居直り、被告席では小首をかしげ、テレビのライトに手をかざして光をさえぎる、ゆう然たるポーズを見せたが、裁判そのものを否定する態度は相変わらずという。

「法廷で江青は〝私の首を切れ〟と叫んだ。強がりもあろうが、殺されることによって自分が毛沢東主席の〝殉教者〟として英雄視され、文革派の残党をふるいたたせるネライも持っていた。あのセリフは、かなり真実味があった」と台湾の情報筋は分析している。

「こうした政情不安の現状や、文革派がいぜん根強いという実態を江青は十分に知っている。だから〝英雄〟ですからね。ともかく外部から〝しゃ断〟する方針をとるでしょう。つまり秦城の独房の一室に閉じ込めておくこと。そして大衆の頭から文革、江青を早く忘れさす以外にないんじゃないですか―」と中国問題研究家・桑原寿二氏はいう。

同じく死刑判決を受けた張春橋・元副首相(六)は、裁判がシナリオに基づく政治ショーと見通しているかのように完全黙否を通したが、重病(腸ガンといわれる)のため、結局は獄死という見方が強い。

ともかく、もっか中国は日本との大型プロジェクト契約を破棄するなど大幅な国家財政の赤字に悩み、三日の「人民日報」は湖北省の製鉄所の閉鎖、売却を伝えるなど経済混乱が起きている。鄧体制にとっては、四人組を裁いて〝見せしめ〟たものの、いぜんとして生きつづける文革派の処遇そして江青の〝怪気炎〟に、お荷物は大きく、そして重たそうである。

外部としゃ断

〝労働改造〟なし　秦城1号監獄

大阪抄

三月に入ると、川釣りファンは色めき立つ。各河川で鮎流釣りが解禁されるからだ。猫柳の芽ふきはじめた岸辺を、残雪踏みわけ、アマゴやイワナを求めてたどっていく。半年間待ちに待った楽しみに、ようやくめぐり会えるのだ。

一日の奈良・吉野川解禁には二千人以上が入川したという。おかげで満足に竿を出す場所もなかった、とこぼす人もいたが…。

×

釣りの世界には、釣れる魚の季節とかシュンといったものが、厳として存在する。年がら年中、イチゴやキュウリが出回り、温室育ちの花々が咲くのに比べて、春にはアマゴ、モロコ、夏はアユ、秋はタシ、サバ、冬はカレイ…という、あいに、季節に応じて、対象も変わり、ファンも動く。この世界には、いまや得難い日本の四季が残っている。

×

釣り人口はいまや千八百万人ともいわれ年々増えてきた。たとえ、獲物が少なくても、四季の風物に接して心もやわらぎ、あすへの活力を得ることができるのが釣りの特色。いうまでもなく、日本の四季は芸術・文化を育て、特色ある社会を作ってきた。趣味を通じて四季を体験し、豊かな人間をはぐくむ、釣り人の増加は大いに結構なことだ。

現職刑事が主婦を脅迫

デートいやなら「浮気ばらす」

東京 懲戒免どころか退職金

以前に職務質問したことのある主婦に「デートに応じなければ、あんたの浮気をばらすぞ」と脅しの呼び出し電話をかけた警視庁福生署の刑事が脅迫の現行犯で逮捕されながら、刑事とわかってその日に釈放され、退職金の支払われる諭旨免職となっていたことが五日、明るみに出た。

逮捕されたのは同署警備課巡査、A(二九)。

Aは一月末、捜査のため私服で西多摩郡五日市町へ出かけた際、道をたずねようとして偶然、数年前の事件で職務質問したことのある四十歳代の主婦、B子さんに出会った。

ところが、B子さんの案内のしかたが不親切で冷たなあしらわれたのに腹をたてて、非番の日の二月二十日午後、B子さんに電話し「以前、職務質問した時、車の中で男といっしょにいたろう。浮気していることを亭主にばらすぞ。そのことで話をしよう」と脅し、無理やり秋川市で会う約束を取りつけた。しかし、B子さんは怖くなって、すぐ五日市署に届けたため、Aは約束の場所に現れたところを張り込み中の五日市署員に脅迫の現行犯で逮捕された。

Aは初め、身分を隠していたが、調べを行ううちに隣接の福生署員であることがわかった。Aは「ちょっとデートがしたくていたずら心でやった。悪いことをして申しわけない」と謝罪、辞職を申し出た。

このため、同署はその日の夜Aの身柄を釈放、警視庁に連絡し、翌二十一日付で諭旨免職とした。

警官が犯罪を起こして逮捕された場合は普通、懲戒免職になるのだが、ここの処分になったことについて「動機はいたずら心だったといい、罪状は軽いと判断した。B子さんから〝内聞にしてくれ〟と頼まれたため、これまで公にしなかった」という。

高瀬久夫警視庁・警務部理事官は「動機はいたずら心だったといい、罪状は軽いと判断した。B子さんから〝内聞にしてくれ〟と頼まれたため、これまで公にしなかった」といっているが、諭旨免職では減額されるとはいえ退職金が支給されるため、都民から「処分が軽すぎる」という批判が出ている。

ピックアップニュース

★〝5億円授受〟田中ピンチ　ロッキード裁判・丸紅ルートを整理している東京地裁刑事一部(岡田光了裁判長)は五日までに、丸紅から元首相・田中角栄被告(六三)に渡ったとされる丸紅運転手、松岡克浩氏の検事調書三通と、元田中被告の運転手・笠原政助氏(捜査中の五十一年六月、自殺)の供述書をいずれも、証拠として採用する決定を下し、関係者に通知した。これにより、ロ社から丸紅、丸紅から田中被告側へ、という五億円の流れは証拠上、固まったものになった。

★日本車規制は限定された期間、規模で　米通商代表部(USTR)のブロック代表は、四日、一部記者に対し、レーガン政権は日本車輸入規制策をとることになろうが、その期間、規模は極めて限定されたものになろうと述べ、同政権としては比較的穏やかな日本車規制を検討中であることを明らかにした。同代表は期間、規模(台数)の具体的内容には言及しなかったが、米国側による一方的輸入割り当てではなく、日本と対米輸出について交渉する形が望ましいとの持論を表明した。(時事)

☆島田陽子また受賞　米テレビドラマ「将軍」で一躍、脚光を浴びた女優、島田陽子がハリウッド・ラジオ・テレビ協会が最も活躍した女性に贈る「ウーマン・オブ・ザ・イヤー」賞を受賞した。すでにハリウッド女性記者会のゴールデンアップル賞やゴールデン・グローブ賞を受賞しており、テレビ関係各賞を独占する勢い。(サンケイほか)

創価大、法政大合格者
1千万円宝くじ 当選番号

〈2面〉 〈9面〉

大阪センタービル(伊藤忠ビル)10階
大阪市東区北久太郎町4丁目68の3
大阪メデカルタワー
地下鉄(御堂筋線)本町下車
電話(大阪〇六)二五一一三八五(代)
西川婦人科クリニック
院長・西川 潔

きょうのダウ
東証 7094円
03銭 〈前日比−40円36銭〉
大証 6985円
32銭 〈前日比−42円74銭〉

神戸博 ポートピア'81の図柄を使用しています
ただいま発売中!!
第167回 全国自治宝くじ
1等2,000万円×18本
2等1,000万円×180本
3等100万円×1,800本
1枚200円
受託 第一勧業銀行

ソフトアルミ容器いり
フルーツドリンク

200g
標準小売価格 80円
グリコ カプリソーネ
〈アップル〉〈オレンジ〉〈レモン〉